

平成30年度

一般公開

『上水記』



『上水記』第7巻「上水樋筋色分け」



『上水記』東京都指定有形文化財(古文書)

江戸時代の水道の記録『上水記』年に一度の一般公開

10月27日(土) — 11月4日(日)

東京都水道歴史館 3Fレクチャーホール

午前9時30分から午後5時まで
(入館は午後4時30分まで)

JR中央線・総武線 御茶ノ水駅・水道橋駅
地下鉄丸ノ内線 御茶ノ水駅・本郷三丁目駅
地下鉄千代田線 新御茶ノ水駅
地下鉄都営三田線 水道橋駅
地下鉄都営大江戸線 本郷三丁目駅
※自家用車の駐車場はありません。(各駅より徒歩約8分)

会期中無休

観覧無料

東京都水道歴史館
TOKYO WATERWORKS HISTORICAL MUSEUM

〒113-0033 東京都文京区本郷二丁目7番1号
TEL (03) 5802-9040 FAX (03) 5802-9041

水道歴史館 ホームページ <http://www.suidorekishi.jp/>



『上水記』とは

『上水記』は、玉川上水開削からほぼ140年後の寛政3年(1791) 徳川幕府普請奉行上水方道方石野遠江守広通いしのとおとうみのかみひろみちによってつくられた、江戸上水の幕府公式記録(主として、神田・玉川上水の建設記録)です。天明8年(1788)に起稿し、3年がかりで3部作成されました。

青色の表紙に和綴じで10巻の構成となっており、1部は時の將軍11代家斉公に献上し(国立公文書館内閣文庫蔵、欠本あり)、もう1部は老中松平定信に進呈(所在不明)、残りの1部は上水方役所の保存用に置かれ、「上水方のみちしるべ」にしたと伝えられています。

明治維新により玉川上水の管理も明治政府、東京府に移管され、上水方の『上水記』は東京府土木課から水道局に引き継がれ、現在、東京都水道歴史館に保管されています。貴重な江戸の上水史料として、昭和52年(1977)4月5日、東京都指定有形文化財(古文書)の指定を受けました。現在、全巻が残されているのは東京都が保管しているこの1部のみです。

上水記展

上水記展では【上水を描く―「樋線図」の世界】をテーマに、『上水記』の重要な要素である上水の配管図「樋線図」を紹介します。恒例の『上水記』一般公開では、今年も実物を展示。なかでも第2巻の「玉川上水水元絵図并諸梓図」は、多摩川に造られた羽村取水堰を縦135.5cm×横514cmの大紙面に精緻かつ鮮やかに描いたもので、一見の価値がございます。今年をあわせて、所蔵する江戸～明治の「樋線図」の実物も展示します。ぜひこの機会にご覧ください。



『上水記』第2巻(部分)

『神田橋外新シ橋迄 神田上水樋筋絵図』

水道歴史展

『上水記』の公開に合わせて「水道歴史展」を開催いたします。東京150年にあたる本年は、また、明治31年(1898)に淀橋浄水場が通水を開始して、ちょうど120年にあたります。これにちなんで、今回は「近代化と水道」と題し、東京近代水道の誕生と発展を、実物資料と映像を交えながら、グラフィックパネルで紹介します。



淀橋浄水場機関室と煙突(大正14年4月)

講座

『上水記』を知る

10月6日(土) 14:00～14:30
展览会開催に先立ち『上水記』の解説と展示の見どころをご紹介します講座です。

展示のご案内

学芸員による展示解説

10月27日(土) 10月28日(日) 11月3日(土・祝)
11:00～/14:00～(各回30分、同じ内容)

ご来場者プレゼント

上水記展にお越しいただいた方に、記念品を差し上げます。

※お一人様1点

いずれも参加料無料、お申込み不要。3階レクチャーホールにお集まりください。